

被災地から技術革新を

仙台市は4日、小型無人機「ドローン」と自動走行車に関する実証実験を3月27日に、東日本大震災で被災した荒浜地区(若林区)で行うと発表した。市は、規制緩和により新規産業や雇用創出を目指す「地方創生特区」に指定されており、近未来技術の活用で被災地から新たなイノベーション

ドローンで橋点検 移動に自動走行車

(技術革新)を起す狙いだ。ドローンは劣化した橋などの点検や、土砂崩れで変化した地形の測量などに活用される予定だ。自動走行車は過疎地で移動が困難な人が利用することを想定している。

いずれの実験も東北大未来科学技術共同研究センター(仙台市青葉区)などと共同実施し、災害危険区域に指定されている荒浜小学校とその周辺で行われる。市プロジェクト推進課は「実験が進めば、いずれ規制緩和が必要になる。今回は、そこに進む前の試金石にした」としている。

来月27日、仙台市が実証実験